

2023年度 静岡県言語聴覚士会 全体研修会 開催

2月4日(日) Zoomを使用し、2023年度の静岡県言語聴覚士会全体研修会をオンライン開催しました。

9:30~10:20 「咀嚼嚥下条件において喉頭侵入所見が残存した球麻痺の一例」

浜松市リハビリテーション病院 鈴木 佑梨さん

40代男性で右椎骨動脈乖離によるくも膜下出血により、気管切開、失調性呼吸を伴う球麻痺を呈した症例について発表していただきました。

回復期病院を経ても嚥下障害が重度で胃瘻増設されている方で、VE、VF検査にて右舌咽・迷走神経麻痺を認めました。

訓練開始時はアイスマッサージ、舌骨上筋群強化、バルーン訓練、直接訓練(嚥下食1j 30°)を実施し、その後パスリーダー(末梢神経の反復性磁気刺激装置)にて舌骨上筋群の筋力増強や、ジェントルスティムにて嚥下閾値を下げる訓練も取り入れ、評価と訓練内容の見直しを繰り返されました。3か月後には著明な機能改善を認め、摂食嚥下Gr. 3AからGr. 5(1日2食、右頬杖位 嚥下調整食2-1)に向上しました。

検討事項として、咀嚼嚥下条件における喉頭侵入所見残存の要因と、今後の対応について発表者より挙げられ、参加者と意見交換がなされました。失調性呼吸の影響を受けないよう胸郭をバンドで固定してはどうかという意見や、咀嚼しても口腔内でまとまりのあるエンゲリード等を使用するとどうなるのか、嚥下反射惹起開始時の食物の先端の位置はとろみと異なるのか等様々な意見が出ました。退院後も訪問看護でリハ職が関わり、3か月後の再入院にて1日3食で食形態もアップするという更なる改善を目指す予定とのことで、切れ目のない支援で長期にわたり関わっていかれる今後の気がなる症例でした。重度の方でも積極的に適切な関わりをすることで、これほど改善するのかと参加者に希望を持たせて下さる発表でした。



10:30~11:20 「てんかん性健忘を呈した患者に対する復職支援～入院・外来におけるリハビリテーション～」

西島病院 近藤 知美さん

右側頭葉内側の脳梗塞合併したてんかん発作により、記憶障害(てんかん性健忘)を中心とした高次脳機能障害を呈した症例(50代男性)の入院・外来におけるリハビリテーションについて発表していただきました。

入院時よりADLは自立していましたが、前向き健忘があり、その影響で情緒が不安定になることがありました。抗てんかん薬服薬後ではWMS-R等で言語性・視覚性記憶に改善が認められました。

本人の在宅復帰願望が強く、1か月後に退院されましたが、復職にて高次脳機能障害が露呈し社会生活に



支障をきたしていました。外来にて①マッピング・コミュニケーションを使用した心理アセスメント（面接法）、②「to do list」＝「やることリスト」を記入、「did it list」＝「やったことリスト」を記録する、メモリーノートの活用、③新聞記事を要約して伝える「in put」⇔「out put」訓練を実施した結果、障害を補うことができたり、自ら周囲に協力を依頼したり、自身で問題に対応できるようになり、前向きに過ごせるようになったそうです。

質疑応答では、職場への関わり方について質問があり、この症例の場合は検査結果や考えられる問題点を紙に書いて本人から会社に渡してもらったり、外来にて本人と一緒にどういう仕事ができるかを考えたりしたとのことでした。また、その方の苦手な部分を書いておき、同僚に聞かれたときに見せるように持ち歩いていたようで、「私のトリセツ」のようなものが大事ということを共有しました。近藤さんは反省点として、入院時に仕事復帰の問題点における評価や訓練を行えなかったことを挙げられていましたが、参加者からは復職後の困りごとを外来につなげられてうまくサポートできて良かったという意見もありました。ADLは自立されていても、高次脳機能障害が残り、見た目ではわかりにくい障害であり本人や職場の方への理解を促すことの困難さがあり、それを丁寧に関わりで本人の気持ちに寄り添いながら支援し、役職としての仕事を継続していけるようになられた具体的な方法を示していただき大変参考になりました。

11:30～12:20 活動報告「すんぷ訪問リハビリコミュニティ「語Reha[®]」の活動～他職種の中でのST活動～

城西クリニック 佐々木 智加さん

訪問リハビリのコミュニティ「かたりば」の概要について、ST主導の活動内容や、「かたりば」でのアンケート結果を中心に報告をしていただきました。

「かたりば」は静岡市内の20か所の訪問リハビリ事業所が参加し、リハビリ専門職中心に医師や看護師、ケアマネジャー等のグループLINEに59名が参加し、年に4回の定例会や、メルマガ配信、イベントを主催しているそうです。ST主導の活動では、ケアマネジャー等にSTのことを知ってもらう、口腔ケアの方法を伝達する等のほか、失語症の方の社会参加に関わる活動もされています。

アンケート結果では、STに嚥下やコミュニケーションの評価や訓練をしてほしい、STに関わってほしいが関わってもらえないこともある、STが「かたりば」にいることで気軽に質問や相談ができるといった回答があったそうです。

後半は活動実績とアンケート結果から、ST全体で共有したいこと、考えたいことの意見交換を行いました。STはどう使ってよいか知られていない、ST対象者にSTが関わっていない可能性があるという点について検討しました。啓蒙活動という点では、泉会長より、近々県士会のHPにSTのいる施設を掲載する予定であること、まだ会員でないSTにもぜひ会員になってもらい施設情報を充実させていきたいこと、そのために非会員STへの声掛けをしてほしいこと、全国協会の「STの日」の活動を数年以内に当県でも行いたいことなどが挙げられました。また、ST派遣依頼などの問い合わせがあっても、実際には動ける人がおらず引き受けられない現実があること、ボランティアではなく仕事として市町村の事業に



つなげていきたいこと等ご意見をいただきました。

他職種の中で活動することで、考えや思いの共有ができたり、助け合えたり、成長できるメリットがあり、何よりも「楽しい」がベースになっていると伺い、それぞれの地域でネットワークが構築されると良いと思いました。

講演会運営に対するアンケート

回収人数 34人 回収率 77%

(講義形式)

WEB 開催が良い 19人 56%

会場型開催が良い 1人 3%

情勢によって対応してほしい 12人 35%

どちらでもよい 2人 6%

(資料の送付について)

メールでデータ便の URL が届きダウンロードできた 34人 100%

できなかった 0人

(受講中画面共有できないことが)

あった 0人

なかった 34人 100%

(受講中、音声がかれたことが)

なかった 29人 85%

あった 5人 15%

アンケート (WEB 講義の感想)

- ・円滑な司会進行で講義に集中することができた
- ・使い方に不安がありましたが無事に受講できてよかったです。
- ・他県の研修会に気軽に参加できて良かったです。
- ・わたくしは新人の ST で人脈もありませんので、今回のように他の施設や分野で活躍されている先生方のお話を聞ける場を本当に貴重に感じており、嬉しいです。必要な方に必要な支援が届くように、もっとコミュニティが広がっていくと良いと思いました。
- ・事前の案内では、発表前はビデオ ON、発表開始後 OFF とありました。参加していることをビデオ画面で確認する目的かと思っていましたが、ON 確認しないまま始めましたね。今後の進め方を

(アナウンスの仕方)を検討してください。一度は画面を ON にしてもらうことが必要だと思います。

・二人が同時に発言してしまうと音声かとぎれてしまいますね。それ以外の音声トラブルはなかったと思います。"

・参加しやすかったです (他 3 人)

・内容も充実していて良い研修会だったと思います。

"・移動時間等効率化ができてとても助かった (他 6 人)

・不慣れなため、画面に氏名が残ってしまいました。

・今回もゆったり聴講出来てよかった。

・様々な意見やリハビリ内容について聞いてよかったです。

・子供がいる中で zoom を用いて参加できることは助かります。

・初めての参加でしたが、どのような雰囲気か気軽にのぞけることができ、大変参加しやすかったです。

・急性期病院でしか勤務したことがなく、言語聴覚士としての経験も浅いので、さまざまな形態でリハビリをなさっている先生方のご意見を伺えてとても勉強になりました。

アンケート (発表内容の感想)

・自分の知らない知識を多く得ることができ勉強になった

・地域活動についてなど普段なかなか知ることのできないことが知れて勉強になりました。

・2 例の事例報告は各症例を深く分析されて、発表内容も分かりやすくまとめられていて大変勉強になりました。

・普段の臨床でなかなか出会わない症例やそのリハビリについて学べて本当に良かったです。

・今後の臨床を行う上でとても参考になりました。

・2 症例とも丁寧な評価と考察で大変勉強になりました。特に 2 症例目は外来でのフォローということで時間的な制限があったと思いますが、何を優先して取り組むべきか ST の関わり方を考えさせられました。本人さんと丁寧に情報共有を行い、問題解決の方法を一緒に考えておられたのが良かったと思いました。

・成人①難しい症例で、発表者ご本人のためのアドバイスは少なくて申し訳なかったですが、参加者には非常に勉強になり、リハビリの可能性を見せていただけました。森脇先生の最後のまとめのコメントの通りだと思います。症例検討にとどまらず、学会発表や論文にまとめられることを期待しています。

・成人②どうしても ST の報告は文字が多くなりがちですが、読みやすく見せ方の参考になりました。就労は皆悩んでいると思いますが、なかなか共有できていないので今後につながるきっかけになったと思います。取り組んだ手法をたくさん紹介していただけたのが良かったです。

・発表③ST が ST になって良かったと実感できる働き方ができると、社会貢献につながっていく気がします。一足飛びにはできませんが、あきらめずに一歩ずつだと思っています。"

- ・症例報告や活動報告など大変参考になりました。定量的な評価、適切な訓練の実施、患者様の生活背景を知ることなど、今後臨床で活かしていきたいと思います。
- ・地域での活動などまだまだ知らないことも多かったので聞くことができよかったです。"
- ・症例発表はとてもわかりやすく、あまり知らない分野でも理解を深めることができた。
- ・実際に似た症状の患者様を見ていることや、今後関わる可能性があることを考えながら訓練内容や機序の考え方を臨的に知ることができとても勉強になった。"
- ・病院での取り組みを知ることができ、STの専門性の追求や取り組みを改めて大事だなど思いました。
- ・今回、久しぶりに研修会に参加できました。難解な点も多かったですが、参考になる点も多かったです。3番目の発表での課題については、関わっている事業所内でも模索が始まったところてす。
- ・症例報告では関わり方や訓練方法、その効果について知ることができ勉強になった。活動報告では地域でのSTへのニーズについて知ることができた。
- ・どれもSTとして勉強になった。楽しんで見聞を広めること、それが地域に繋がっていくことどの講演も繋がっていると思いました。
- ・3例共明日からの臨床に活用出来る内容であり、有意義でした。嚥下や高次脳機能の方は在宅でも苦慮する事が多い為、実施内容や質疑応答時に挙がっていたご意見がとても参考になりました。
- ・どの発表も新たな知識と発見になりました。
- ・丁寧な評価と整理が障害が多い症例こそ必要になってくると感じました。また、介入期間中の効果判定によって適宜訓練内容の修正が訓練効果を向上させる上で大切であると思いました。
- ・1つ目の症例検討での細かな情報や分析が非常にわかりやすく、参考になりました。咀嚼や呼吸状態での変化、その他嚥下に関与しうる可能性を考えつつ、自身でも評価・考察していきます。"
- ・普段担当することのない40~50歳台患者の訓練が垣間見れて、興味深かったです。発表者が、しっかり計画した丁寧な訓練を行っており、自身の訓練を省みる良い機会になりました。
- ・鈴木先生は重度の嚥下障害の方に対して、詳細な評価、訓練のプログラムを立て、著明な改善が認められて素晴らしいと思いました。
- ・近藤先生はてんかん性の記憶障害の方に、外来でできる仕事のすり合わせや、メモリーノートの工夫により、その方自身で問題解決ができるようになった点が参考になりました。
- ・佐々木先生の発表では、かたりばのグループが継続して活動できているのは楽しいからというのが印象的でした。
- ・STとして、地域で何ができるか考えたいと思いました。私の市でもリハビリグループの集まりがありました。継続できておらず、継続することの大切さを感じました。

アンケート（2023年2月～2024年2月まで参加した研修会・学会で、よかったもの）

- ・災害リハ支援者養成研修会
- ・浜松嚥下フォーラム
- ・認知症ケア学会
- ・今回のものしか受講していませんが、どの内容もとても勉強になりました